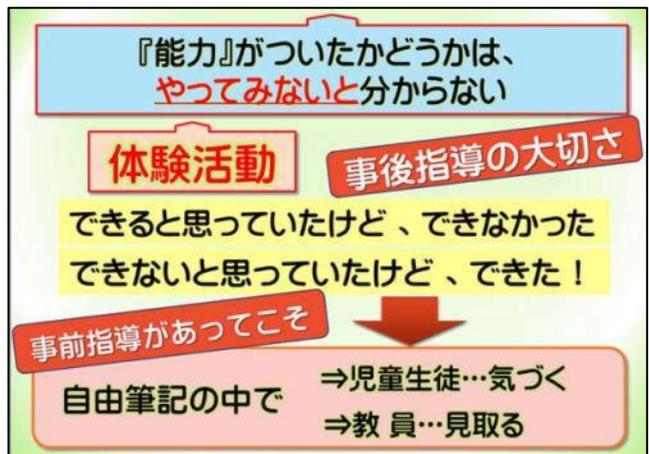


6 評価方法について

体験活動と評価 ～能力は、やってみないと分からない～

- ◆地域推進会議で高知大学の横山卓先生に、「実際に体験をして、体験前にはできると思っていたことができなかつたり、できないと思っていたことができたりしたときに自分の能力が分かるので、能力に関わることは、実際にやってみないと分かりません」ということを教えてくださいました。
- ◆例えば、授業後の評価を児童生徒に書かせるときに、『今日の授業は、楽しかったですか』と聞けば、本人の気持ちを答えればよいので正しい結果が得られます。ところが、『今日の授業は、よく分かりましたか』と聞くと、分かったつもりで本当は分かってなかったということも起こります。授業が分かったかどうかは、はい・いいえで問うよりも、実際に問題を解かせた方が正確に分かります。
- ◆このように、『能力』に関わることは、実際にやってみないと、身についたかどうかは分かりません。
- ◆基礎的・汎用的能力についても、同じことが言えると思います。コミュニケーション能力ができたかどうかは、実際に他者とコミュニケーションをとって見ないと分かりません。そのため、体験活動（話し合い活動等の授業での活動も含めて）が必要となってきます。



体験活動を通して、『気づく(児童生徒)』、『見取る(教員)』

- ◆また、児童生徒自身の気づきだけでなく、先生方が子どもたちの能力を『見取る』場にもなります。体験活動を通して子どもたちについた力やこれからつけなければいけない力を『見取る』ことが、キャリア教育での『評価』に繋がってくると思います。
- ◆体験活動は、自己の能力の、大切な『気づきの場』であり、事後指導によって『振り返り』をすることで、子ども自身が自分の成長を感じ、『これから どうしていけばいいか』を考える機会となります。
- ◆キャリア教育の授業に評価を入れていくことは、なかなか難しいことですが、1回の授業で評価を入れるのではなく、授業では教科の評価を中心にして、キャリア教育の視点については体験活動の中で見取っていくようにしています。

体験活動に キャリア教育視点を入れることで 思考が変わる

- ◆地域の方や専門の先生をお呼びして体験学習をするときには、習う内容に加えて、『講師の生き方から学ぶ』という視点を入れると、児童生徒の受け止め方が違ってきます。
- ◆以前、学年集会で先生方(校長先生にも)に「どんな小中学生だったか」「どんな夢をもっていたか」「どうして学校の先生になろうと思ったか」などを生徒たちに話してもらったことがあります。同じ先生

なのに、みんな動機が違うことも、生徒たちには新鮮だったようで、先生方の生き方からいろんなことを感じていました。

意欲や自尊感情の土台として

◆須崎市のすべての小中学校で様々な体験活動が実施され、事前事後の学習で子どもたちはいろんなことに気づき、将来に役立つ能力が育っています。

◆また、体験活動を通して育った『思い』が、自尊感情や学習意欲を高めるための土台にもなっています。今実施している体験活動の中に、あまり達成感がない活動があれば、キャリア教育視点で見直し、再プランニングをすることを、今後も続けていきたいと思えます。

例として、調理師さんに料理教室をお願いしたとき

そのまま お願いした場合、児童の感想は

★おいしかった ★料理を頑張りました
★またやりたい ★家でもやりたい

なぜ調理師になろうと思ったのか
調理師になって良かったと思うことは
子どもたちが、今やっておいたらいいこと
などの話もお願いしますと
お願いした場合、
児童の感想(考える視点)も変わってくる

キャリア教育の視点



自校の体験活動を振り返ろう

- ◆体験学習が、児童が自分を見つめ直すきっかけの場となっていますか。
- ◆他学年が、どんな目的で、どんな体験学習をしているか、知っていますか。
- ◆体験学習が、児童が自分の将来を考えるきっかけの場となっていますか。

自尊感情 自己有用感

知的な好奇心 学習意欲

生まれた(育った)地域が好き・家族が好き
友達が好き・先生が好き・学校が好き

「こんな人になりたい」という思い

気づきにつながる体験活動



7 成果と課題

キャリア形成アンケート(高知県教育センター)の結果より

- ◆キャリア教育の成果を見取るものとして平成25年度より毎年、高知県教育センターのキャリア形成アンケートを実施し、宿毛市・香美市・須崎市のアンケートの集計・分析もしていただいています。今年度も10月下旬に実施したアンケートを使い、3年間の検証を行ないました。
- ◆次ページの表は、平成25年度と26年度に実施したアンケートを、須崎市全小中学校の平均で比較したものです(各項目は **1**当てはまらない~**4**当てはまる の4段階評価です)。もともと25年度の数値も低くなかったのですが、ほとんどの項目で平均値が上昇し、推進校の実践の成果が出てきていると感じます。
- ◆この集計は学校毎にも出していただいております、各校では、全校の平均と学校毎の集計データを使って、職員会や校内研で振り返りを行ないました。

キャリア形成に関するアンケート結果 須崎市全小中学校 H25⇔H26比較			H25 須崎市 全小中		H26 須崎市 全小中		
カテゴリー	項目内容	選択肢 1～4 の回答率⇒	平均値		比較 ↓	平均値	
	郷土への愛着	私は自分の住んでいる地域が好きである	3.44	3.44		3.46 3.46	
基礎的・汎用的能力	人間関係形成・社会形成能力	地域の活動（季節の行事や地域のそうじなど）に参加している	3.24	2.51	↗	2.64	3.27
		人の役に立つ人間になりたいと思う		3.61	↘	3.56	
		学校の授業で学んだことは、将来、仕事や生活で役に立つと思う		3.48	↗	3.53	
		近所の人に会ったときは、あいさつをしている		3.34		3.34	
	自己理解・自己管理能力	場に応じて、ていねいな言葉をつかうことができる	3.13	3.30	↗	3.37	3.23
		規則、ルール、約束を守っている		3.21	↗	3.32	
		自分には、よいところがあると思う		2.89	↗	3.01	
	課題対応能力	失敗をしても、もう一度、挑戦している	3.05	3.22		3.26	3.11
		失敗をした際には、なぜ失敗をしたのか、ふりかえるようにしている		2.89	↗	2.97	
		わからないことや知りたいことがあるとき、進んで調べたり、だれかに質問したりしている		3.12	↗	3.20	
		難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している		2.98		2.98	
		身近な人や、さまざまな分野で活躍している人の姿から学ぼうとしている		3.09	↗	3.17	
		わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べるとよいか理解している		3.06	↗	3.13	
		自分なりに勉強の仕方を工夫している		2.98	↗	3.07	
キャリアプランニング能力	将来の夢や目標を持っている	3.26	3.40	↘	3.31	3.26	
	中学生（高校生）になって、積極的に取り組んでみたいことがある		3.30		3.26		
	自分はどんなことが得意であるか知っている		3.08	↗	3.20		
基本的な生活習慣	当番や係など自分の仕事をしっかりとやっている	3.11	3.31	↗	3.41	3.16	
	みんなが集まる場所では、ほかの人のことを考えて行動している		3.26	↗	3.32		
	机やロッカーの中など身の回りの整理整頓をしている		3.18		3.19		
	学校に持っていくものを、前の日に確かめている		2.97	↗	3.02		
	朝、決めた時刻に自分で起きている		2.82	↗	2.88		
自尊感情	自己評価・自己受容	私は自分のことが好きである	2.65	2.50	↗	2.60	2.77
		私は自分という存在を大切に思える		2.86	↗	2.99	
		自分には、よいところがある		2.83	↗	2.94	
		私は今の自分に満足している		2.42	↗	2.53	
	関係の中での自己	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	3.43	3.55		3.60	3.45
		私は人のために力を尽くしたい		3.30		3.30	
	自己主張・自己決定	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	2.92	2.94		2.97	2.99
		私は自分の判断や行動を信じていることができる		2.91	↗	3.01	

教科の学習意欲	国語の学習に対する内発的動機	新しい知識を身に付けたいから国語の勉強をしている	3.05	2.76		2.89	3.09
		国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う		3.33		3.32	
		国語の問題は最後まであきらめずに考えている		3.05		3.06	
	算数(数学)の学習に対する内発的動機	新しい知識を身に付けたいから算数(数学)の勉強をしている	3.20	3.05		3.15	3.26
		算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う		3.34		3.40	
		算数(数学)の問題は最後まであきらめずに考えている		3.20		3.24	
	学習に対する外発的動機	親や先生に認めてもらいたいから勉強をしている(2つの項目をまとめて1つにした)	2.50	2.50		2.53	2.53

◆上昇している項目が多いとはいえ、まだまだ不十分な項目もありますので、さらに取組みを進めていきます。

比較の矢印	0.05ポイント以上の差	0.1ポイント以上の差	0.2ポイント以上の差

経年変化より、9年間の成果を見る

◆同学年の経年変化のデータも、学年毎(小5~中3)に比較表を作りました。小学校ではまだ大きな変化は見られませんでした。学年が上がるにつれて上昇が見られ、特に中2⇒中3の変化が大きく表れました。ここではその中2⇒中3の比較表を掲載します。

キャリア形成に関するアンケート結果 須崎市中学3年生 経年比較			H25 中2		比較 ↓	H26 中3	
カテゴリー	項目内容	選択肢1~4の平均⇒	平均値			平均値	
郷土への愛着	私は自分の住んでいる地域が好きである		3.36	3.36		3.40	3.40
人間関係形成・社会形成能力	地域の活動(季節の行事や地域のそうじなど)に参加している		3.15	2.41		2.71	3.32
	人の役に立つ人間になりたいと思う			3.50		3.62	
	学校の授業で学んだことは、将来、仕事や生活で役に立つと思う			3.37		3.51	
	近所の人に会ったときは、あいさつをしている			3.32		3.45	
基礎的・汎用的能力	場に応じて、ていねいな言葉をつかうことができる		3.16	3.32		3.46	3.31
	規則、ルール、約束を守っている			3.30		3.46	
	自分には、よいところがあると思う			2.86		3.01	
課題対応能力	失敗をしても、もう一度、挑戦している		2.98	3.11		3.23	3.15
	失敗をした際には、なぜ失敗をしたのか、ふりかえるようにしている			2.93		3.11	
	わからないことや知りたいことがあるとき、進んで調べたり、だれかに質問したりしている			3.15		3.29	
	難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している			2.85		2.96	
	身近な人や、さまざまな分野で活躍している人の姿から学ぼうとしている			3.01		3.19	
	わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べるとよいか理解している			2.96		3.16	
	自分なりに勉強の仕方を工夫している			2.87		3.08	

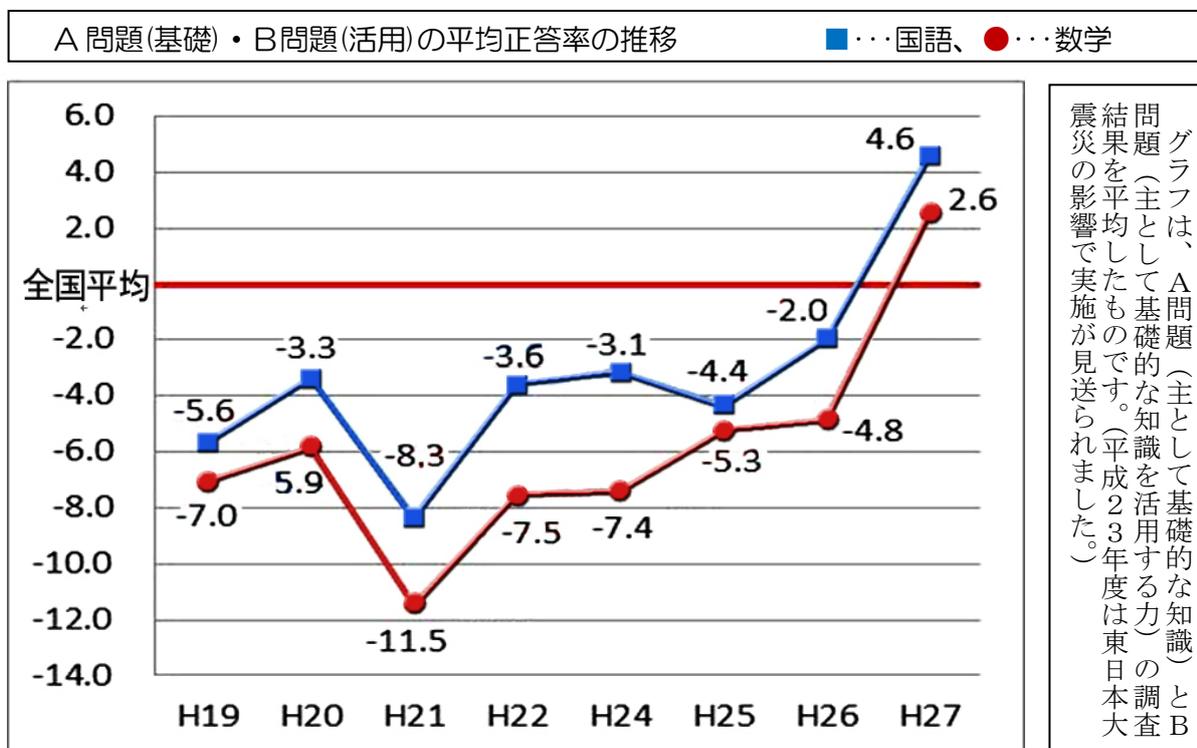
キャリア プラン ニング 能力	将来の夢や目標を持っている	3.10	3.21		3.33	3.30	
	中学生（高校生）になって、積極的に取り組んでみたいことがある		3.08		3.40		
	自分はどんなことが得意であるか知っている		3.01		3.17		
基本的 生活 習慣	当番や係など自分の仕事をしっかりとやっている	3.11	3.38		3.50	3.23	
	みんなが集まるところでは、ほかの人のことを考えて行動している		3.22		3.43		
	机やロッカーの中など身の回りの整理整頓をしている		3.16		3.29		
	学校に持っていくものを、前の日に確かめている		2.96		2.96		
	朝、決めた時刻に自分で起きている		2.85		2.98		
自尊 感情	自己評価・ 自己受容	2.58	2.49		2.60	2.69	
			私は自分という存在を大切に思える	2.77			2.94
			自分には、よいところがある	2.80			2.96
			私は今の自分に満足している	2.26			2.24
	関係の中 での自己	3.36	3.47		3.55	3.43	
			私は人のために力を尽くしたい	3.26			3.32
	自己主張・ 自己決定	2.94	2.96		3.01	3.30	
			私は自分の判断や行動を信じていることができる	2.93			3.05
教科の 学習 意欲	国語の 学習に 対する 内発的 動機	3.00	2.72		2.93	3.19	
			国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	3.23			3.36
			国語の問題は最後まであきらめずに考えている	3.05			3.27
	算数 (数学) の 学習に 対する 内発的 動機	3.04	2.92		3.08	3.19	
			算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	3.13			3.20
			算数(数学)の問題は最後まであきらめずに考えている	3.07			3.28
	学習に対する 外発的動機	2.42	2.42		2.50	2.50	

比較の 矢印	0.05ポイント 以上の差		0.1ポイント 以上の差		0.2ポイント 以上の差	

- ◆これまでも中2でわくチャレ（職業体験学習）を体験し、高校受験も意識しながら自分の将来を考える等の進路指導を行ってきましたが、各推進校でキャリア教育視点を入れながら、さらに効果的な取り組みをしたことが、この意識の向上に繋がっていると思います。
- ◆さらに中学3年生の全国学力学習状況調査の結果を見ると、この結果と連動するかのように上昇が見られます。この1～2年間の集計結果だけでキャリア教育と学力向上の関連性について論ずることはできませんが、キャリア教育によって自分の将来について考えるようになり、生活習慣や学習態度を見直し、いろんなことに興味意欲が高まることで学力も向上するという事は確かだと思います。
- ◆小学校ですが、小5⇒小6の経年比較を見ると、まだ中2⇒中3のような大きな変化は見られず、全国学力学習状況調査の結果も良い年度と思わしくない年度があり、キャリア教育と学力との関連を見

することはできませんでしたが、基礎的・汎用的能力は息の長い教育活動の中で培われていくものであり、中学3年生の良い結果は小学校から続けてきた学習や体験活動等の土台の上にあることは明らかで、今年度のアンケート等を分析しながら年度末に再検証をして、次年度に繋げたいと思います。

【平成27年度全国学力学習状況調査より 須崎市中学3年生の平均正答率】



縦軸と数値は、全国平均正答率との差を示しています。

子どもたちの自立心の芽生えを成果として

- ◆須崎市では、児童生徒が自主的に企画運営する取組みが増えてきました。昨年度、中学校生徒会を中心として、須崎市PR曲の作成と完成記念式典を実施したことは、各校が子どもたちの自立心を大事に育ててきた成果だと捉えています。他にも、児童の話合いで須崎を探索する遠足を実現したり、生徒会が全校に呼びかけて自主的な地域清掃活動を行なったりと、たくさんの活動が行われています。
- ◆キャリア教育が子どもたちの社会的自立に向けた取組みであることを考えると、アンケート等の数値だけでなく、子どもたちの自立心の芽生えを教職員自身の感性で感じ取り、育てていくことも大切だと思います。
- ◆次ページより各推進校の実践を掲載しますが、いろんな工夫をしながら、子どもたちの自立に向けて取り組んでいる先生方の思いも感じていただけたらと思います。
- ◆子どもたちの自立に繋がる取組みを、キャリア教育としてどのように深化・発展させていくのかを課題とし、子どもたちが夢や志を持って自分の未来を切り開いていけるように、これからも須崎のキャリア教育を推進していきたいと思っています。

